

2016 年度事業報告

I. 一般概況

1. 植物性たん白の生産、出荷・自社使用量

当協会の調査によれば、2016 年の植物性たん白の国内生産量は 45,814 トン（うち、大豆系が 38,330 トン、小麦系が 7,484 トン）で、対前年比 102.1%であった。

また、同年の植物性たん白の出荷・自社使用量は 60,337 トンで、対前年比 102.2%であった。

表－1 植物性たん白の生産、出荷・自社使用量の推移

単位：トン、%

年次	国内生産量			出荷・自社使用量		
	計	大豆たん白	小麦たん白	計	大豆たん白	小麦たん白
2012年	44,650	36,698	7,953	54,811	36,616	18,194
2013	43,786	36,499	7,287	55,880	36,736	19,143
2014	44,352	36,968	7,384	57,717	37,329	20,388
2015	44,863	37,122	7,741	59,034	37,817	21,218
2016 (対前年比)	45,814 102.1	38,330 103.3	7,484 96.7	60,337 102.2	39,347 104.0	20,991 98.9

資料： (一社)日本植物蛋白食品協会調べ

- 注：
- 「国内生産量」は国内自社工場で生産した総量でOEMや受託生産も含む。海外自社工場の生産量は含まない。
 - 「出荷量」は国内向けに出荷したもののだけでなく輸出したものも含む。「自社使用量」は最終製品製造のために自社で使用する原料の量である。
 - 四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

2. 植物性たん白の JAS 格付検査依頼数量

(一財)日本穀物検定協会の取りまとめによれば、2016 年の植物性たん白の JAS 格付依頼数量は 32,852 トン（うち、乾燥品が 31,243 トン、ペースト状が 1,525 トン、冷凍品が 84 トン）で、対前年比 100.3%であった。

表－２ 植物性たん白の格付検査依頼数量の推移

単位：トン、%

年次	計	乾燥品			ペースト状	冷凍品
		計	粉末状	粒状		
2012年	36,738	33,520	14,262	19,259	3,009	209
2013	35,594	33,463	14,147	19,317	1,960	171
2014	33,184	31,377	11,048	20,329	1,684	122
2015	32,759	30,893	10,628	20,266	1,743	122
2016 (対前年比)	32,852 100.3	31,243 101.1	10,334 97.2	20,909 103.2	1,525 87.5	84 68.9

資料：（一財）日本穀物検定協会資料

注： 四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

3. 植物性たん白の輸入量

財務省「貿易統計」によれば、2016年の植物性たん白の輸入数量は47,028トン（うち、大豆系が26,528トン、小麦系が20,501トン）で対前年比105.8%であった。

表－３ 植物性たん白の輸入量の推移

単位：トン、%

年次	計	小麦たん白	大豆たん白		
			計	たん白含有 90%未満	たん白含有 90%以上
2012年	40,481	18,151	22,330	6,088	16,242
2013	43,323	19,982	23,341	6,622	16,719
2014	44,348	19,737	24,611	7,717	16,895
2015	44,456	19,796	24,661	7,555	17,106
2016 (対前年比)	47,028 105.8	20,501 103.6	26,528 107.6	8,983 118.9	17,544 102.6

資料：財務省「貿易統計」

注： 1. 各区分の現在の品目分類番号は以下のとおりである。

(1)小麦たん白： 1109.00-000

(2)大豆たん白(たん白含有率90%未満)

(2)-①たん白含有率80%以上、小売容器入り： 2106.10-221

(2)-②その他： 2106.10-222

(3)大豆たん白(たん白含有率90%以上)： 3504.00-021

2. 四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

II. 各種事業等の実施状況

1. 植物性たん白の消費の増進、普及啓発に関する事業（調査、資料収集、展示会）

（1）パンフレット等の作成・更新

- ・ 昨年度に引き続き、植物性たん白のパンフレットの統計記載ページを更新するとともに、対外的なプレゼンテーション用資料を整備した。

（2）試供品等の配布

- ・ 昨年度に引き続き、植物性たん白のパンフレット、試供品、レシピ集等の配布を行った。

（3）広報

- ・ 食品関係の業界紙誌記者との懇談会（5月23日）を開催するとともに、関係各紙誌に協会広告及び会長年頭所感を掲載した。また、報道・調査機関からの取材調査等にも対応した。
- ・ 協会ホームページ上の各種統計データ（統計の表記を含む）、法人情報等の更新・見直しを行うとともに、食品関係事業者、一般消費者等からの各種問合せにも対応した。

（4）外部主催の事業・催し等への参画

- ・ （株）食品化学新聞社主催の ifia JAPAN 2016（国際食品素材/添加物展・会議、5月18日～20日）に協賛・参加し、日本医療栄養センターの井上正子所長に「日本人の健康づくりに活躍する植物たん白の働き～脳の働きを活発にするブレインフード（健脳食）としての植物性たん白の可能性～」、不二製油（株）開発部門価値づくり市場開発室第三グループの工藤透グループリーダーに「大豆たん白の機能性と加工食品への応用」についてご講演いただくとともに、植物性たん白のパンフレット、試供品及びレシピ集を配布した。
- ・ 第63回日本栄養改善学会学術総会（9月7日～9日）に参加し、日本医療栄養センター・井上正子所長の研究成果「植物性たん白の普及活動に関する研究」を発表いただくとともに、植物性たん白のパンフレット、試供品及びレシピ集を配布した。
- ・ 日本食糧新聞社主催のファベックス 2016（惣菜デリカ・弁当・中食・外食・給食・配食業務用専門展、4月13日～15日）、NPO 法人ベジカルチャーネットワーク主催の東京ベジフードフェスタ 2016（10月29日～30日）、農林水産省及び（公財）日本農林漁業振興会主催の農林水産祭・実りのフェスティバル（11月11日～12日）をはじめ、各種食品関係イベント等に後援・協力・参加した。

2. 植物性たん白食品の規格及び技術に関する事業（調査、資料収集）

（1）JAS 規格

- ・ （一社）日本農林規格協会の連絡協議会（7月6日及び11月28日）に出席し、JAS 規格とその運用に関する情報収集、意見交換等を行った。
- ・ （一財）日本穀物検定協会主催の JAS 品質管理責任者講習会（12月2日）に講師を派遣し、「植物性たん白とその品質管理等について」の講義を行うとともに、同協会 JAS 公平性委員会（1月18日）に出席した。
- ・ 大豆たん白の窒素－たんぱく質換算係数に関して、JAS 規格、食品表示基準、日本食品標準成分表等における記載内容・経緯等についての情報収集を行うとともに、当業界にとっての問題意識、要望等について関係機関への説明・要請を行った。

（2）技術の開発・改善

- ・ 技術部会において訪問先、日程等を検討し、技術研修会を開催した。本年度は9月27日～28日に兵庫・鳥取県内を訪問し、(一財)日本穀物検定協会神戸分析センター、(株)ちむら及び鳥取県産業技術センター食品開発研究所において事業・業務等について説明を受け、施設見学、意見交換等を実施した。
- ・ (一社)日本食品機械工業会主催のFOOMA JAPAN 2016(国際食品工業展、6月7日～10日)、農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門の研究成果展示会2016(11月2日)等の技術開発・改善に関するイベント等に協賛・参加した。

3. 植物性たん白食品の内外の情報収集及び調査研究に関する事業(調査、資料収集)

(1) 情報収集

- ・ 植物性たん白及び関連食品の原料、加工、利用等に関する内外の情報収集を行うとともに、植物性たん白の生産出荷統計、JAS格付検査依頼実績及び輸入実績のデータを整備した。
- ・ 厚生労働省等の食品衛生管理の国際標準化(HACCPの制度化)についての説明会(10月31日及び1月30日)及び消費者庁等の加工食品の原料原産地表示制度についての説明会(11月10日及び12月21日)に出席したほか、行政機関(農林水産省、財務省、経済産業省を含む)等による食品に係る各種法令・制度についての説明会等への出席を通じて、関連情報の収集に努めた。
- ・ 日本臨床・公衆栄養研究会の講演会(6月18日、9月17日及び2月18日)に出席したほか、第63回日本栄養改善学会学術総会(9月7日～9日)、農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門の研究成果展示会2016(11月2日)等を通じて、研究機関・学会における関連情報の収集に努めた。
- ・ (一財)食品産業センターの企業・団体連絡協議会(4月13日、6月8日、7月21日、10月5日、12月14日及び2月2日の6回)等に出席し、食品産業政策の展開方向に関する農林水産省からの説明、食品産業をめぐる諸問題に関する同センターからの説明等を通じて、関連情報の収集に努めた。
また、(一社)日本農林規格協会、食品関連産業国際標準システム・食品トレーサビリティ協議会等のセミナーに出席し、関連情報の収集に努めた。
- ・ アメリカ大豆輸出協会主催の米国大豆・油脂セミナー(8月2日)及び2016アメリカ大豆バイヤーズ・アウトLOOK・コンファレンス(11月17日)及びSoy Canada主催のカナダ食品大豆セミナー(2月23日)に参加し、植物性たん白の需要・原料事情に関する情報収集に努めた。

(2) 調査研究

- ・ 日本医療栄養センターが行う植物性たん白の普及活動に関する研究に対して助成した。

(3) 現地研究会

- ・ 運営委員会において訪問先、日程等を検討し、現地研究会を開催した。本年度は10月6日～8日に山口・福岡県内を訪問し、(株)ヤナギヤ、山口県産業技術センター、フジミツ(株)、林兼産業(株)等において事業・業務等について説明を受け、施設見学、意見交換等を実施した。

4. セミナーの開催(研修、セミナー)

- ・ 技術部会においてテーマ、日程等を検討し、技術セミナーを開催した。本年度は2月14日に製粉会館において、日本医療栄養センターの井上正子所長に「植物性たん白の栄養・生理機能」、宮城大学の池戸重信名誉教授に「食品表示を巡

る最新の動向」についてご講演いただくとともに、意見交換、懇親等を実施した。

5. 協会創立 40 周年記念事業

- ・ 5月9日にKKRホテル東京において、関係各位（関係官庁・団体、報道機関、賛助会員等）にも多数ご出席をいただき、協会創立40周年記念懇親会を開催した。
- ・ 協会創立40周年記念誌を発行し、懇親会出席者に配付するとともに、関係機関・団体等への送付、国立国会図書館への納本等を行った。

6. その他

(1) 協会運営

- ・ 関係法令、定款等に則り、各種内部会議等を円滑かつ的確に開催・実施した。

(2) その他

- ・ 会員はもとより、賛助会員に対しても有用な情報の提供に努めた。